

- ◆1ページ
 - ・研修紹介(学びの質を向上させる授業実践研修・授業づくり研修)
 - ・学校紹介(観音中学校)
- ◆2ページ
 - ・授業づくりシリーズ 学ぶ意欲が高まる授業を目指して(特別支援教育編)
 - ・教育委員会発！情報FLASH (広島市道徳教育プログラム)



写真：「学びの質を向上させる授業実践研修・授業づくり研修より」

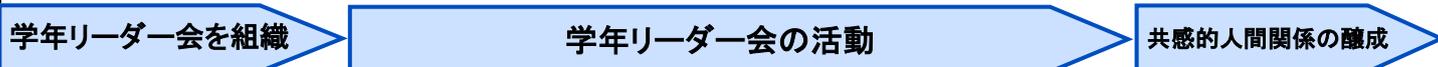
研修紹介 「わかる」をすれば授業が「かわる」

児童生徒の学びの質を高めるためには、「わかる」とはどういうことなのか、教師自身が理解を深めることが大切なのではないでしょうか。本研修では、大分大学の藤田敦教授に「わかる」ということについて講義をしていただきました。示された3つの「わかる」にはそれぞれ意味があり、それを意識して授業を行うことが大切であると教えていただきました。

	判る	解る	分る
意味	決まりを憶えると 判る ようになる (正否・善悪・相違を判別できる)	「なぜ」と問い、決まりを探し出すと 解る ようになる (内容・仕組・関係を推測できる)	ひと(社会)と決まりを分かちあうと 分る ようになる (意義・価値・考えを共有できる)
発問例(算数科)	どの公式を使えば良いかわかりますか？	なぜこの式で計算できるかがわかりますか？	なぜAくんがこの方法で計算したかわかりますか？

学校紹介 学力向上を目指したリーダー育成 ～学年リーダー会を通して～

観音中学校は、学力向上を目指した学習の基盤づくりの1つとして、学年のリーダーとなる**観音中学校**生徒の育成に力を入れています。そのために、学年全体の班長で組織した「学年リーダー会」の中で、生活面や学習面における向上化計画を立案し、実行しています。学年リーダー会は定期的に集まり、班員に呼びかけて取組を実行し、結果を評価します。そうすることで、リーダーとしての自覚が芽生え、リーダー性が育つとともに、班長を中心とした共感的人間関係が広がり、子どものつながりが深まっています。



- ・班替えは行事等目的に合わせて学年で一斉実施。
- ・立候補者から班長を学年会教員で選出。
- ・目的を確認し、共通認識のもと、班編制。
- ・班は声のかけやすい少人数(4人編成)。



取組例「教え合いで学力アップ大作戦」

- ・(P) 定期テスト前に、学年リーダー会でねらいを確認。
- ・(D) プレテスト→教え合い→確認テスト→アンケートを実施。
- ・(C) 得点表やアンケートを集約し取組成果の振り返り。
- ・(A) 取組成果の報告、まとめをもとに次の課題を検討。

- ・あらゆる場面で、温かい声かけのできる雰囲気ができる。
- ・授業の中で、ねばり強く教え合う関係ができる。
- ・班長の姿から、リーダーとして、みんなの役に立ちたいと考える生徒が増える。



① ここがちょっとわからないんだけど、教えてくれない？

③ これは、〇〇…ということで、あつて？ 教えてくれてありがとう。



② いいよ。それは、〇〇…ということだけど、わかった？ じゃあ、自分のことばで、僕に説明してみて。

～子どもの心に
火をつける～



学ぶ意欲が高まる授業を目指して

特別支援教育

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、学習過程の中の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で、例えば「試行錯誤する活動」や「対話する活動」など、子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。

特別支援学級で当該学年の教科書を用いて学習する場合には、子どもの困難さに応じた支援を行った上で、当該学年の教科のねらいを達成することが求められます。今回は、相手の立場に立つことや、場に応じた話し方、必要な情報の取捨選択などの難しさをもった児童へ支援を行うことで、児童が主体的に課題解決に取り組むことができた国語科の例を紹介します。

課題認識場面の工夫 課題解決のイメージをもたせる指導の工夫

小学校
自閉症・情緒障害
特別支援学級

小学校第4学年「案内係になろう」の単元において、水族館の案内係としてお客さんに対応するという設定で「相手を知りたいことを考えて必要な事柄を選び、丁寧に話す」というねらいを達成するために、課題認識場面で2つの場面（①場のイメージ、②やりとりのイメージ）を具体的に示しました。そうすることで、児童が解決すべき課題を客観的に捉えることができ、課題解決への意欲につながったと考えられます。

	① 場のイメージ	② やりとりのイメージ	
課題認識場面	<p>教室を水族館に見立てて再現することで、案内する場を具体的に認識させる。</p>	<p>教師による案内係とお客さんのやりとりのシミュレーションを見せ、必要な情報や事柄を客観的に認識させる。</p> <p>イルカショーはどこにありますか？</p> <p>左の水槽だよ</p> <p>失礼な言い方だなあ！左の水槽って、どこかしら。行ってみたいけど、もう終わってるじゃないか！</p> <p>お客さんはどうして怒ったのかな？</p> <p>「どこ」の質問には答えているけど、お客さんから見て左右が逆だった。</p> <p>ショーの始まる時刻を教えてあげないといけないじゃないかな。</p> <p>話し方がなれなれしいな。</p> <p>もし、レストランのことを聞かれたらどうしよう。</p>	課題解決場面へ
		<p>必要な事柄を分かりやすく伝えて案内しよう。</p> <p>やってみよう。</p>	

教育委員会発！情報FLASH

『広島市道徳教育プログラム』
～「規範性を育むための教材・活動プログラム」
改訂版・中学校～

「考え、議論する」ための発問の工夫

改正された「特別の教科 道徳」のキーワードは「考え、議論する」です。今回は、改訂された「広島市道徳教育プログラム」の教材の中から「チェックポイント」という題材を取り上げ、従前（「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」平成22年）の発問より一層工夫をこらした発問の例を紹介します。

発問のポイント	教師の発問例	道徳的価値を実現するための資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> 問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問 問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問 問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。 同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するのでしょうか。 なぜ〇〇（道徳的価値）は大切なのでしょう。 	

単元の概要

【主題名】きまりの意味、C 遵法精神、公德心
【教材名】チェックポイント
【教材の概要】ヒロキたちの班は、修学旅行の班別自主研修の途中で、男子と女子がはぐれてしまう。次のチェックポイントで待つ男子と、時間を気にして、チェックポイントの次の見学地で待っていた女子。
班別自主研修でのきまりは次の4つだった。どのきまりを優先するか、道徳的価値を自分との関わりで考えさせ、議論することで、きまりの意味について考えさせる教材です。

- 4つのきまり
- 班全員で行動すること
 - 2つのチェックポイントを必ず通過すること
 - 集合時刻を守ること
 - しっかり見学すること

従前

（これらの）きまりは、それぞれなぜ作られているのでしょうか。理由を考えましょう。

新しい発問と生徒の反応

（これらの）きまりは全て守らないといけませんが、もしも優先順位を付けるとしたら、どのようになりますか。説明してみましょう。

問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問

問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問

みんなに迷惑だから集合時刻を守ることが1番大切だね。

「班員全員で」というきまりがないと勝手に行動する人がでてくるから大事だと思う。これが2番になるのかな。

でも、チェックポイントを通らなかったら危ないし、待ってる先生が心配するかも。こっちが2番じゃないの。